保管用
よくお読みください
保証書別途

取扱説明書

ティルティング車いす
リクライニング車いす
ＫＲＴシリーズ



● 目 次 ●

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます。（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご使用の際には必ず携帯していただき、必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。



株式会社カワムラサイクル

[製品の特徴・使用目的]

この商品は、ティルティング車いす・リクライニング車いすです。
- ●ティルティング車いす(KRT-T)は座面の調整角度を 0°～３５°で調節できます。
- ●リクライニング車いす(KRT-R)は背もたれ調整角度を 0°～８０ ° で調節できます。
- ●体型・症状に合わせた車いすを選択してください。
- ●この商品は、一人乗り用です。

■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がないリクライニング型の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこのリクライニング型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、リクライニング型が使用に適さなくなることがあります。

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
禁止	してはいけないことを示しています。
必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

※なお、この取り扱い説明書は、イラストや写真が一部実車と異なる場合があります。

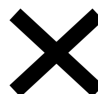


警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、
重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

●勝手に改造・分解しないでください。



強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。
故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。
シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。
また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。



●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。

絶対にステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



●車いすを火気に近付けないでください。

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。



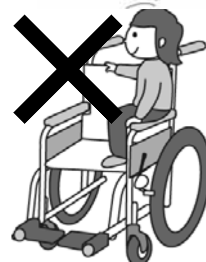
●ポケットには１kg 以上の重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。



●座シート以外の部分に腰掛けないでください。
●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。
●複数の人数で乗らないでください。

この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損･事故の原因になります。

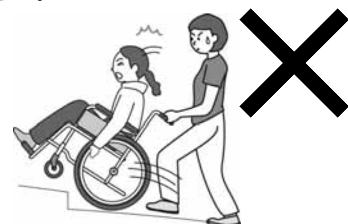


●急な坂道(勾配４度以上)では使用しないでください。
●押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。
●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。

事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。

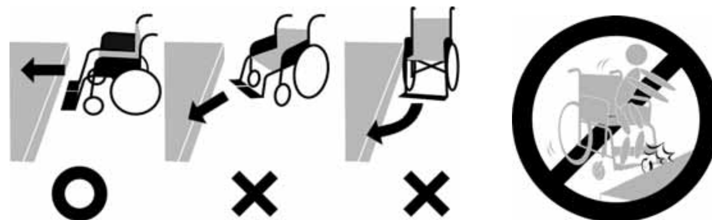
●大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。
●段差を乗り越える際は、固定されているパイプを持ち上げてください。

決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。
また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。



●発進するときや段差を乗り越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。

斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャスタが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



⚠ 警 告

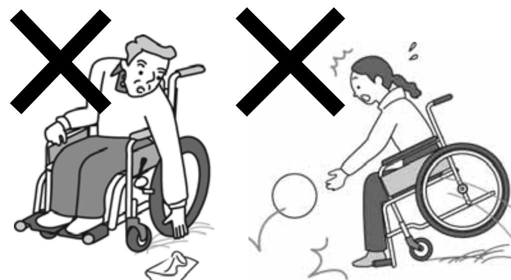
取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



禁止

● 車いすでの走行中は、
身体を乗り出さないでください。

車いすが不安定になり危険です。

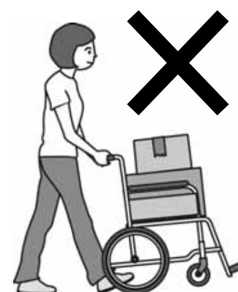


● 車いすに座ったまま強い前傾姿勢を
とらないでください。

車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、
車いすごと転倒し大変危険です。

●車いす以外の目的に使用しないでください。

物品運搬・踏み台などに使用しないでください。
車いすの上では立ち上がらないでください。





必ず守る

●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されている
パイプをしっかり支えてください。

※肘掛けを持たないでください。
※脚部をもたないでください。
※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。



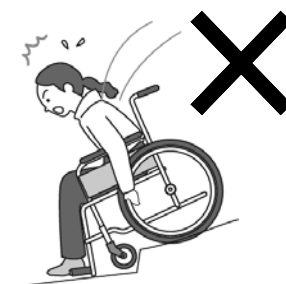


※　利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、
３人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと
支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。

●道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

●身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



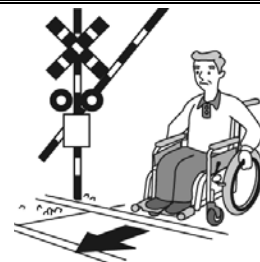


警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



必ず守る



●踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。
必ず介助者と一緒にわたってください。

●坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらいましょう。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

[上り坂]

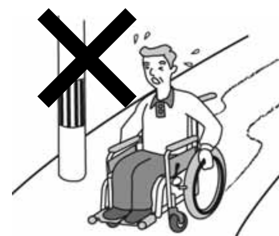


[下り坂]



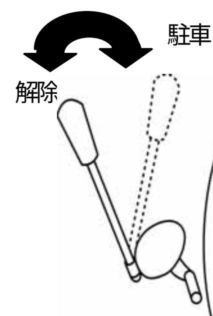
●傾斜地･坂道での走行は特にご注意ください。

・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、
スピードが出やすいなど大変危険です。
・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

●駐車ブレーキをかけても、キャスタ（前輪）はロックされていませんので、動く場合があります。ご利用時には充分ご注意ください。



●走行中は、足を必ずステップ板の上に乗せてください。

足を地面に付けたままで走行したり、ステップ板から外して走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。
（足でこいで操作する場合は例外です。）

●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。

●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を修理･交換してください。



警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



必ず守る

●次のような場所では走行を避けてください。

・交通量の多い道路
・砂利道
・凹凸のある道
・ぬかるみ
・雪道
・凍結路
・防止柵のない側溝や路肩付近など
・崖
・川土手
・海岸防波堤上
・その他危険な場所

●次のような場合は走行を避けてください。

・夜間　・雨天　・濃霧　・強風　・その他危険が予想される場合

夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。
雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

●次のような場所では厳重な注意が必要です。

介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。

・狭い道
・踏み切り
・横断歩道
・駅のホーム
・エレベーター
・車いす対応の動く歩道
・車いす対応の福祉車両
・その他危険が予想される場所

●身体が安定しない方は、シートベルトの着用をお勧めします。

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。
また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。





注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



禁止

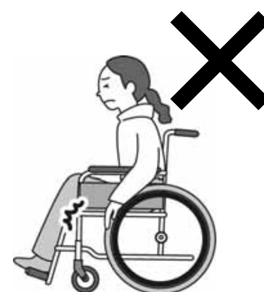
●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。

●ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。

●小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。

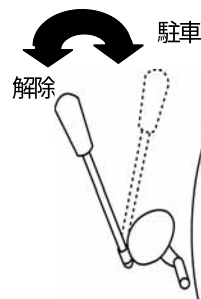
●タイヤをもって車輪を操作しないでください。

駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。



●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。



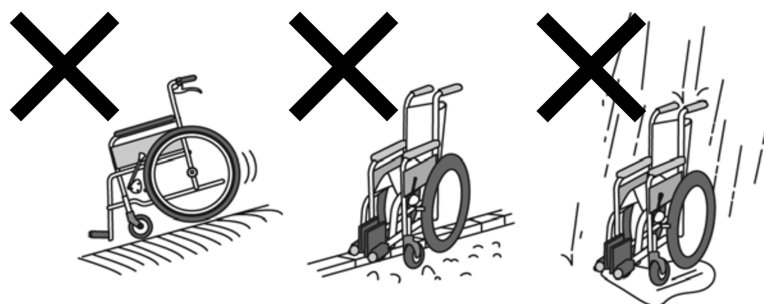
 **注　意**　取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。


禁止

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

・車道に近いところ
・路面に段差や凹凸のあるところ
・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
・ほこりの多い場所
・非常口、消火器、消火栓の前
・直射日光の当たる場所（車内も含む）
・人通りのあるところ
・湿気の多いところ
・雨、風のあたる場所
・坂道
・暑い日や寒い日の戸外
・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
・子供がいたずらをする恐れのある場所

事故やサビ・破損の原因になります。



●急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。

●後輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

●後輪の空気圧を適正に保ってください。

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。(目安として、タイヤを手で押してやや硬い(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。)

空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

●肘掛けに腕を載せたまま、肘掛けを上げ下げしないでください。

●本製品にはフレーム組み換え時に使用するボルト類が同梱されていますが、フレーム組み換え作業はご利用者様では絶対に行わないで下さい。ご購入頂きました販売店にご相談下さい。


必ず守る

●ご使用前には各部を点検してください。

車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。

ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。

●安定した姿勢で座ってください。

座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。

また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。

●回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。

●車いすにバリなどがないかを確認してください。

衝突等により金属・樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。

●認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。

車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

 **注 意** 取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。


必ず守る



● **ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。**

● **介助者は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。**
利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。

●**靴を履かずに足をステップ板に乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。**
壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、大変危険です。

●**介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。**

●**車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。**

●**最大体重を守ってご使用ください。**
車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。

●**ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。**

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

ご確認ください

飛行機にご搭乗される場合



お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。

事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかり、ご希望の便に間に合わなかったり、せっかくの旅行を取りやめなくてはならなくなったりします。
特に六輪車、リクライニング車などガススプリング（ガスダンパー）を使用している車いすは飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。また、電動車いすや電動ユニット装着車いす及び特殊車いすについてもご希望の便によっては貨物室のスペース確保が出来ない場合があります。
はやめの手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。



1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

KRT-T ， KRT-R		KRT-T/ICR ， KRT-R/ICR	
・取扱説明書	1 式	・ 取扱説明書	1 式
・保証書はがき	1 枚	・保証書はがき	1 枚
・13mmスパナ	1 個	・13mm スパナ	1 個
・背クッション	1 個	・アイコンバックディープ	1 式
・座クッション	1 個	・リフレックスクッション	1 個
・座面板(KRT-T,R 用)	1 個	・座面板(ICR 仕様用)	1 個
・背延長(ﾍﾞｰｽｼｰﾄ含む)	1 個	・ヘッドサポート	1 式
・枕	1 個	・R 用または T 用ボルトセット	1 式
・R 用または T 用ボルトセット	1 式		

⚠ 注 意

R 用または T 用ボルトセットを用いたフレームの組み換え作業は
ご利用者様では絶対に行わないで下さい。ご購入頂きました販売店にご相談下さい。

⚠ 警 告

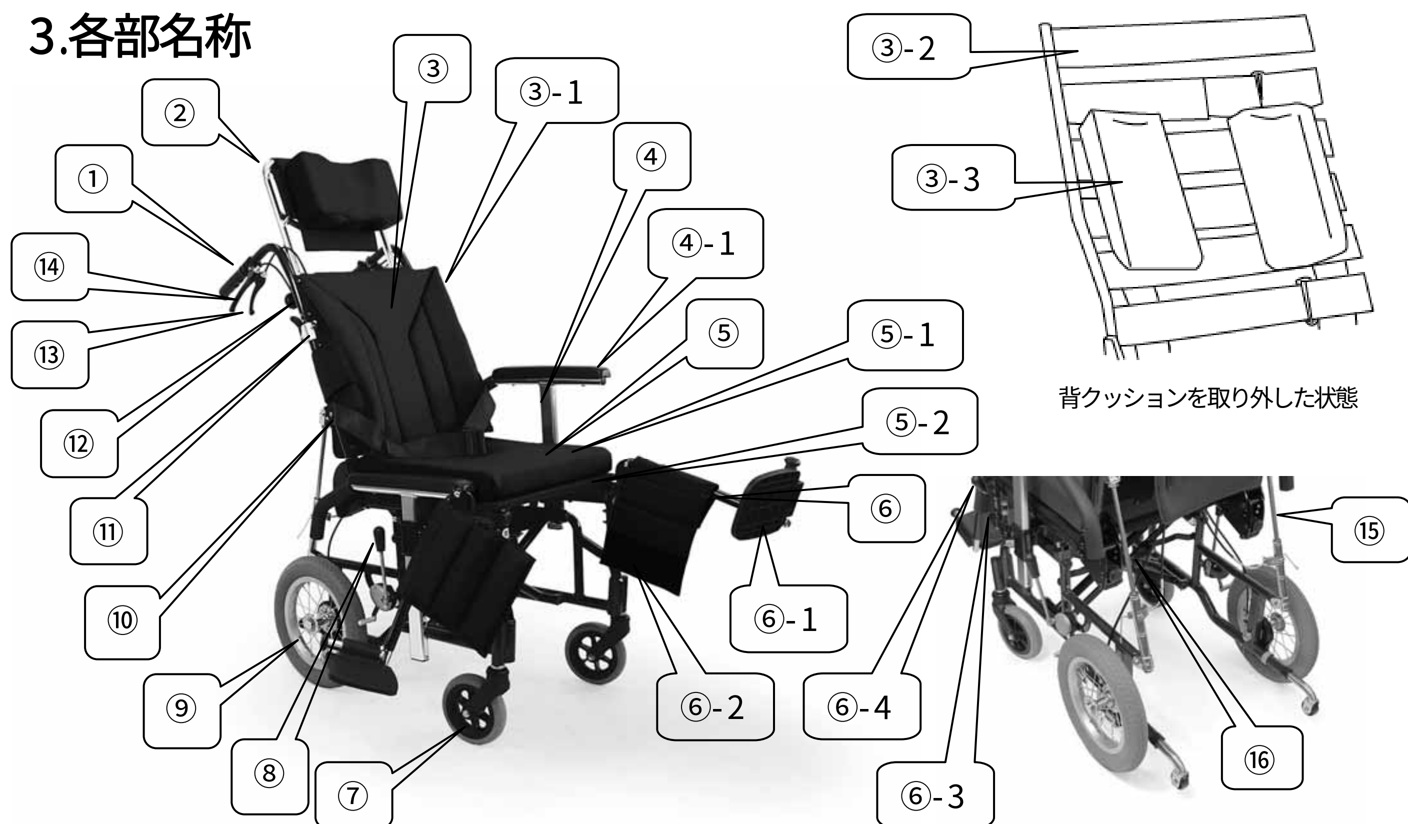
ICR 仕様では、アイコンディープバック、リフレックスクッション、
ヘッドサポートについて必ずそれぞれの取扱説明書をよくお読み下さい。
車いすへの誤った取り付けやご使用は、重大な事故につながる危険があります。

2.安全ラベル

- 取扱い上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。



3.各部名称



①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②背延長 (枕付き)	頭部がよりかかる場所です。
③背シート	背部が寄りかかる場所です。
③-1　背クッション	背ベースシートに取り付けるクッションです。
③-2　背ベースシート	背の張り調整をし、背クッションを取り付けるシートです。
③-３　体幹支持パッド	身体状況に合わせて取り付けることができます。
④肘掛け（アームサポート）	移乗しやすくなるよう座面高さまで下げることができます。
④-1　肘当て	肘を乗せる場所です。
④-2　肘高さ調整スライドピン	肘掛けを上下する時に使います。
⑤座シート	座る場所です。
⑤-1　座面板	座クッションを取り付ける板です。
⑤-2　座クッション	座面板に取り付けるクッションです。
⑥脚部（フット・レッグサポート）	足を支持する装置です。
⑥-1　ステップ板(フットサポート)	足を乗せる場所です。
⑥-2　足ベルト（レッグサポート）	足が後ろに落ちないように支えます。
⑥-3　スイングアウトスライドピン	脚部(フット・レッグサポート)を転回する時などに使います。
⑥-4　エレベーティングレバー	脚部(フット・レッグサポート)を上下する時に使います。
⑦前輪（キャスタ）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑧駐車ブレーキ	車いすを駐車する時に使用します。
⑨後輪	主輪です。
⑩シートベルト	車いすから体がずり落ちないよう腰を固定するベルトです。
⑪背折れ金具	車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑫背延長固定用ノブネジ	背延長を固定します。
⑬メカニカルロック操作レバー	握るとリクライニングやティルティングします。
⑭介助ブレーキレバー	介助者がブレーキを制動するときに握る部分です。
⑮メカニカルロック	リクライニング、ティルティング機構の装置です。
⑯ちぢみ止めノブ	不意にフレームが折り畳まれるのを防ぎます。

4.お使いになる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

- 背ベースシート、座面板は、しっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッション、枕は、しっかりと取付けられていますか？
- 押手は、しっかりと固定されていますか？
- 背折れ金具はしっかりと固定されていますか？
- 肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
- 脚部は、しっかりと取付けられていますか？
- 足ベルトまたはふくらはぎパッドは、しっかりと取付けられていますか？
- ステップ板は、しっかりと取付けられていますか？

★後輪の確認

- タイヤに空気が充分入っていますか？(タイヤを指で押しても容易にへこまないか)
- バルブが緩んでいませんか？
- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

- 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？

★肘掛け

- スムーズに（上下）作動できますか？
- しっかりと固定できますか？
- 傷や亀裂、ガタツキ等はありませんか？

★脚部

- スムーズにスイングアウトまたはエレベーティング、脱着できますか？
- しっかりと固定できますか？
- ステップ板がパタパタしていませんか？
- 傷や亀裂、ガタツキ等はありませんか？

★全体的に

- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- 背もたれがしっかりと固定されていますか？
- ワイヤーが部品等にひっかかっていませんか？
- メカニカルロックは正常に作動しますか？

★介助者へ

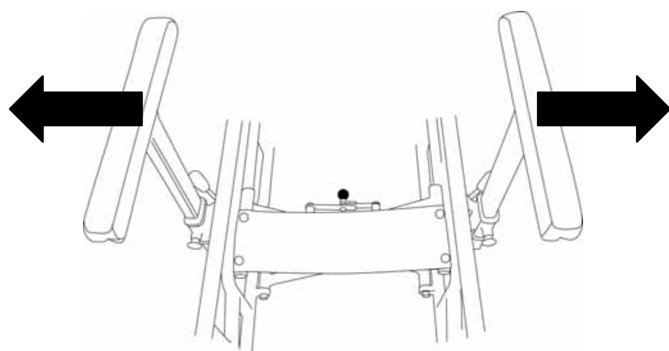
- 長期間の使用や使用頻度によっては、メカニカルロックやキャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- 次のような場所では必ず介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
    - ・急な坂道
    - ・凹凸や段差のある場所
    - ・踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
    - ・その他危険が考えられる場所
- 車いすに乗って介助しないでください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 重い荷物を車いすに載せたり、押手に提げたりしないでください。

5. 車いすの拡げ方･たたみ方

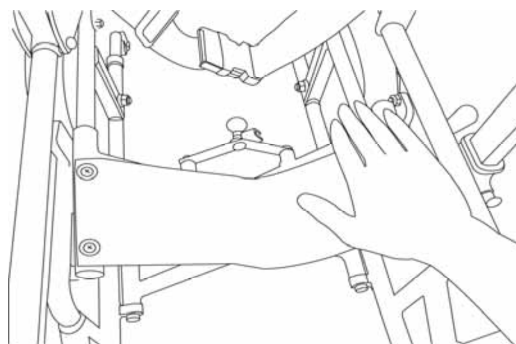
車いすの拡げ方

①車いすを拡げて座面板を取り付けてください。

1.左右に拡げます。

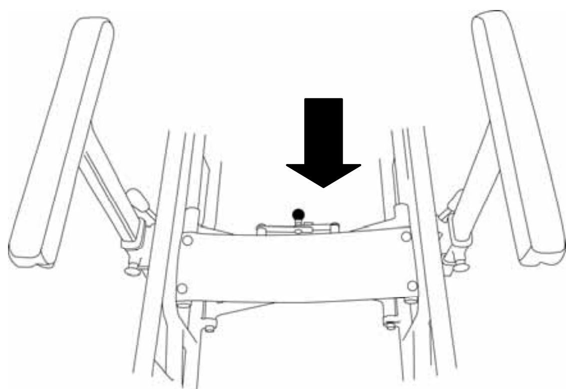


駐車ブレーキをかけます。
車いすの前方または後方に立ち、
左右の肘掛けを持って両側に軽く拡げます。



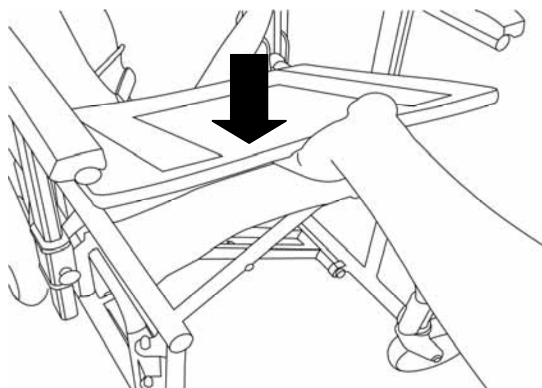
片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、座面端のパイプ部分を上から手で押し下げます。

2.ちぢみ止めノブを下ろします。



ちぢみ止めノブ(赤色)を下ろします。

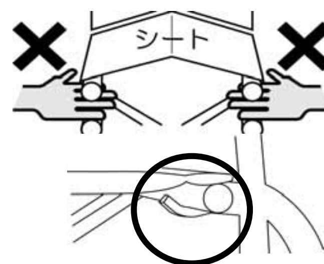
3.座面板を取り付けます



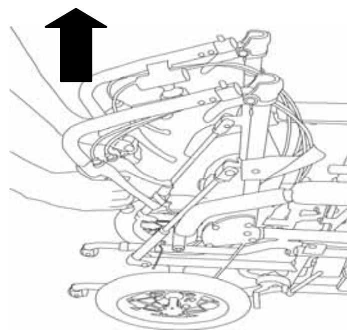
座面板裏面の樹脂（6 箇所）とフレーム側黒色シールを合わせて置きます。
上から座面板を押してパチンとはめ込みます。

 **注 意**

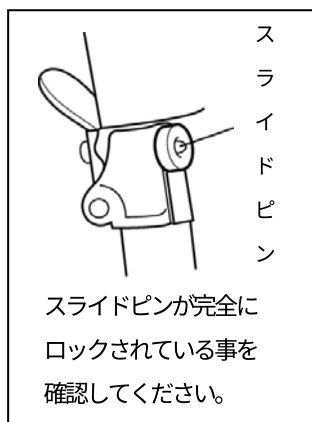
●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。
　挟まってケガをする恐れがあります。
●シートパイプをシート受けに確実に入れてください。
　フレームが変形して、事故の原因となります。
●背延長を外したまま使用しないでください。
●ちぢみ止めノブを下げないままで使用しないでください。



②背もたれを起こしてください。



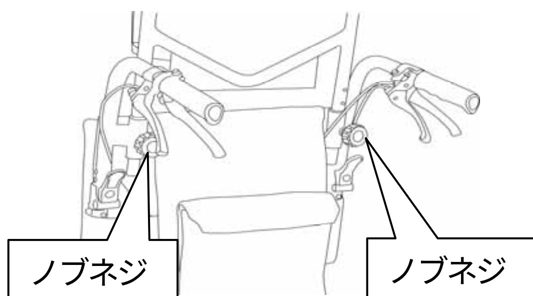
車いすの押手部分を持ち、
上方（矢印の方向）へ引き
起こすように持ち上げてください。
※ このとき、駐車ブレーキを
使用するか、片側の手で車いす
が動かないように支えてください。



スライドピンが完全に
ロックされている事を
確認してください。

⚠ 注 意	
	●矢印の箇所に手や 指を置かないでください。 挟まってケガをする 恐れがあります。
	●背折れレバーが図の向きに なっていることを確認して 操作してください。 回転したまま使用すると レバーが破損する恐れが あります。

③背延長を取り付けてください。



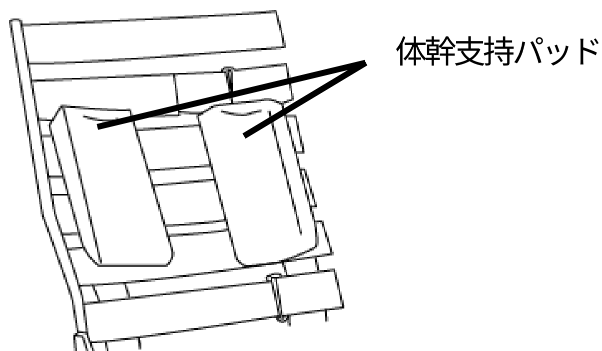
背延長を押手付近のパイプに差し込みます。
背延長側の穴にノブネジを通し、
ネジを締めて固定します。

⚠ 注 意
●ノブネジを紛失しないように ご注意ください。 ●使用時は、ノブネジがしっかりと 締まっていることを確認してください。

⚠ 警 告
背延長はフレームの一部ですので取り付けていない状態では、絶対に使用しないで下さい。 重大な事故につながる危険があります。

④体幹支持パッド、背クッションを取り付けて下さい。

※ICR 仕様ではアイコンディープバックを取り付けます。

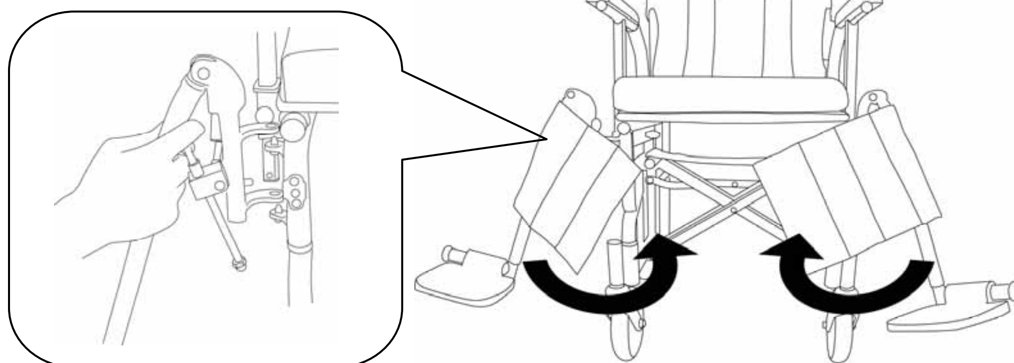


⚠ 警 告

アイコンディープバックの取り付けに
関しては別冊の取扱説明書をよくお読み下さい。
車いすへの誤った取り付けやご使用は、
重大な事故につながる危険があります。

利用者の身体状況に応じて体幹支持パッドを取り付けて下さい。
背クッションを取り付けて下さい。

⑤脚部を取付けてください。

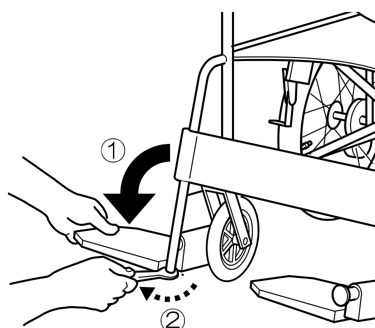


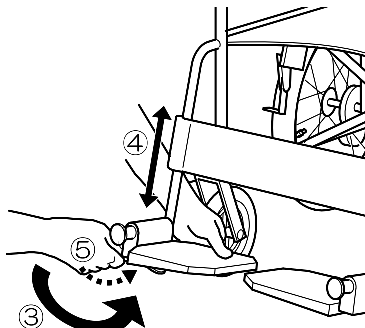
① 本体とスイングアウト部のシールを右と右、左と左を確認して、
上図のように脚を外側にふった状態で脚部の先端をはめ込みます。
※突起部が穴に確実に納まっていることを確認してください。

② それぞれの脚部を内側に９０度回します。（カチッと音がするところまで回してください。）

⑥ステップ板を取り付け、調整してください。

出荷時は、ステップ板が外側に回転させて折りたたんであります。





①ステップ板を外側に倒します。
②付属品のスパナを使って
　ステップポスト先端ボルトを
　少し緩めます。反時計回り
　(②矢印方向)で緩みます。

③内側へ回転させます。
④ステップ板の高さを
　調節します。
⑤しっかりと締め付け
　ます。（7～8N･m）

ステップ板が固くて動かない場合は、下図のように車いすを倒し、ポストに垂直に木槌等で先端の六角ボルト頭を叩いてください。（パイプ内部のポストのかみ込みを解除します。）



⚠注 意

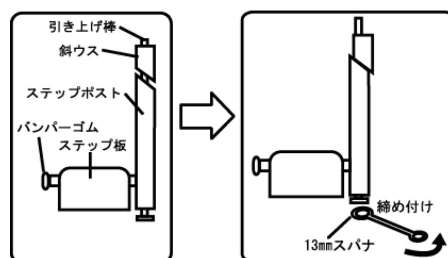
●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったらご使用を中止してください。

⚠警 告

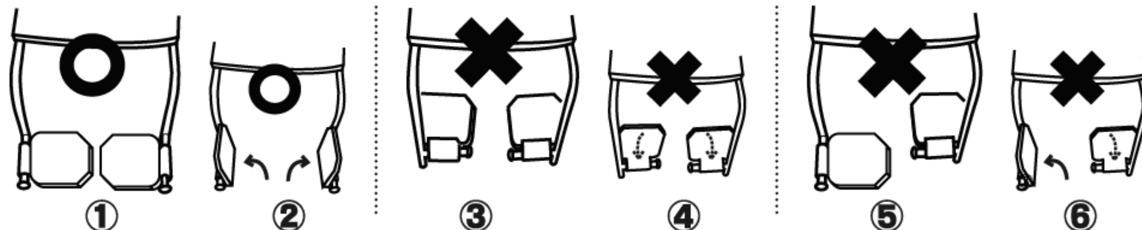


●ステップポストの高さは地面より 5cm 未満にしないで下さい。
低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板があたり、転倒する恐れがあります。

●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナで
しっかりと締め付けてください。
締めることにより斜ウスがズレてステップセットが固定されます。
締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。
しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。



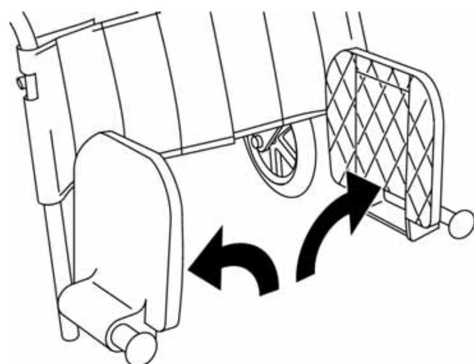
●下図①のようにステップセットを固定してください。



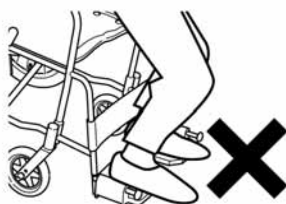
※車いすを折りたたむ時は上図②のようにステップ板を跳ね上げてください。
※上図③,⑤のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため(上図④,⑥)、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。また、前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります。

車いすのたたみ方

①ステップ板をたたみます



⚠ 警 告

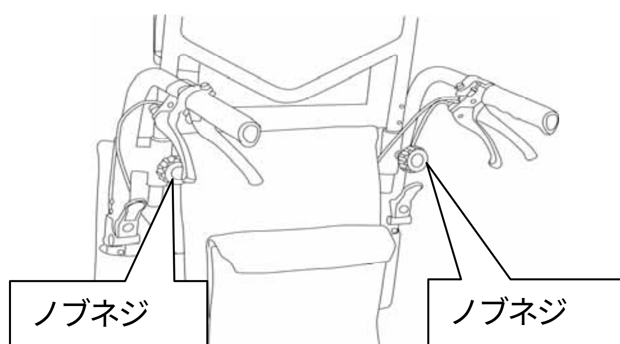


車いすから降りる際、
絶対にステップ板の上に
乗らないで下さい。
車いすごと転倒し、
大変危険です

ステップ板を上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。
※ステップ板を内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ないので、
ステップ板が上方へ上がっていることを確認ください。

②背延長を取り外します。

※ICR 仕様ではヘッドサポートを取り外します。



左右のノブネジを外すと、
背延長の取り外しが出来ます

⚠ 注 意

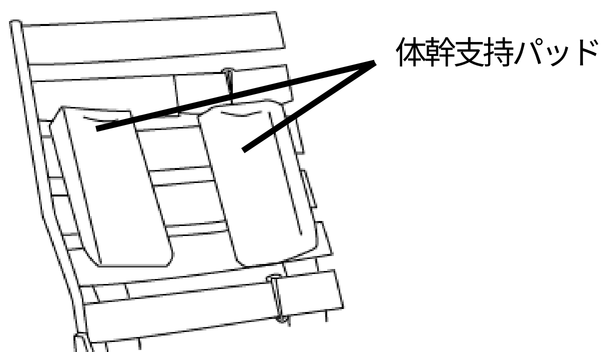
●ノブネジを紛失しないようにご注意ください。
●使用時は、ノブネジがしっかりと締まっていることを
確認してください。

⚠ 警 告

●ヘッドサポートの取り外しに関しては別冊の取扱説明書を
良くお読み下さい。誤ったご使用は、重大な事故に
つながる危険があります。

③背クッションと体幹支持パッドを取り外します。

※ICR 仕様ではアイコンディープバックを取り外します



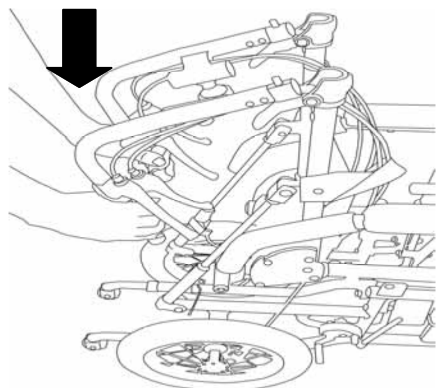
⚠ 注 意

● 背クッションや体幹支持パッドが取り付いたままでは
背折れ金具が上手く折りたためません。無理に折り
たたむとクッションが破損する恐れがあります。

⚠ 警 告

●アイコンディープバックの取外しに関しては別冊の
取扱説明書を良くお読み下さい。誤ったご使用は、
重大な事故につながる危険があります。

④背折れ金具を折り畳みます。



押手を握り、一方の手で背折れ金具のレバーを後方へ
引きながら（もしくは前方へ倒しながら）押手を倒します。
また、反対側も同様に倒してください。

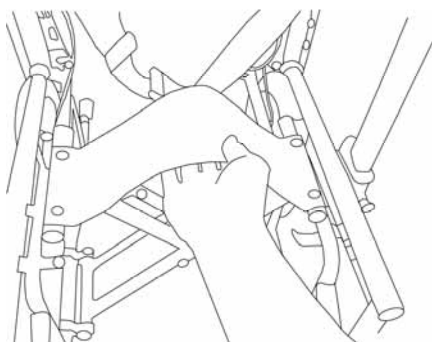
注 意

●矢印の箇所に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

●背折れレバーが図の向きになっていることを確認して操作してください。
回転したまま使用するとレバーが破損する恐れがあります。

⑤座クッション、座面板を取り外します。	⑥ちぢみ止めノブ（赤色）を持ちあげます。

⑦シート部分を持ち上げ車いすを折りたたみます。



※前項⑥のちぢみ止めノブを持ち上げないと
折りたたみできません。ご注意下さい。

注 意

シート

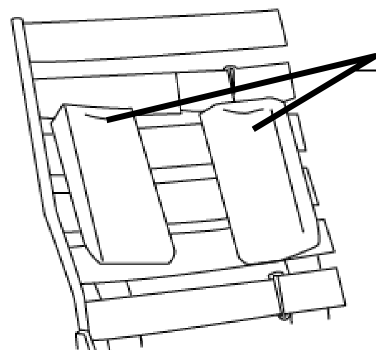
シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。
フレームの破損の原因となります。

6. 各部の操作方法および使用方法

＜背もたれ（適合調整シート）＞

裏側の面ファスナーにより背の張り具合を調整できます。

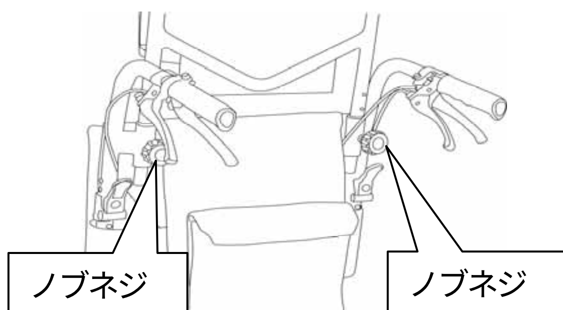


「体幹支持パッド」

裏面に面ファスナーが取付けてありますので、
利用者の身体状況に応じて移動することができます。
（専門家の指示に従う事をおすすめいたします。）

＜背　延　長＞

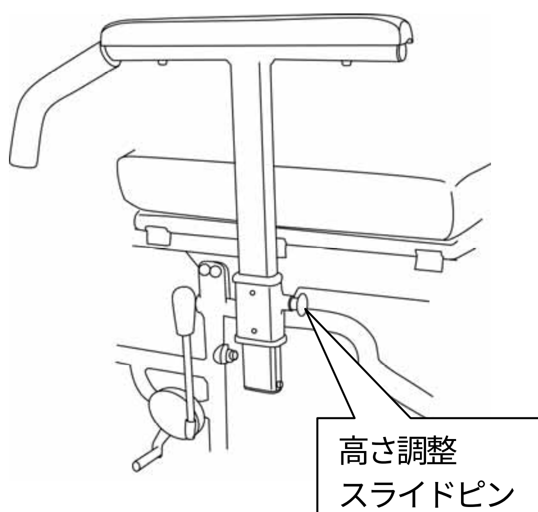
背延長の高さ 5 段階調整できます。
ノブネジを取り外します。背延長を上下させ
別の穴にノブネジを差し込み、固定することで
高さを調整できます。



⚠ 注 意

●ノブネジを紛失しないようにご注意ください。
●使用時は、ノブネジがしっかりと締まっていること確認してください。

＜肘掛け＞



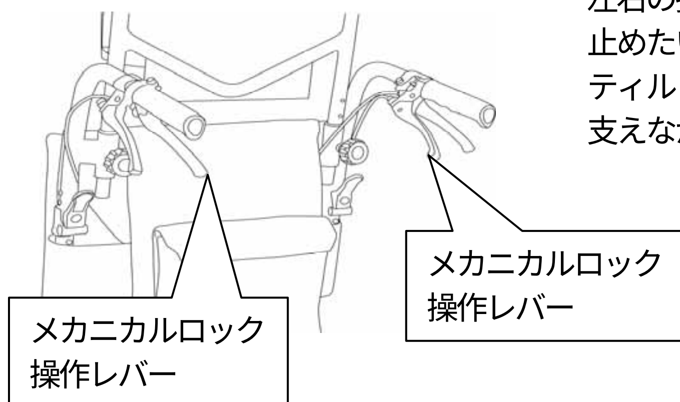
⚠ 注 意

● 手を挟まないようご注意ください。
● しっかりと固定されていることを確認して下さい。

肘掛高さを 4 段階調整できます。
一番下まで下げると移乗の際に便利です。
図中の高さ調整スライドピンを引きながら
適当な高さに合わせて「カチッ」というまで上げます。

※ ティルティング状態では肘掛高さは
一番下まで下がりません。座面調整角度を 0 度に
戻してから行って下さい。

＜KRT-T(/ICR)＞　メカニカルロック操作レバー(ティルティングレバー)＞

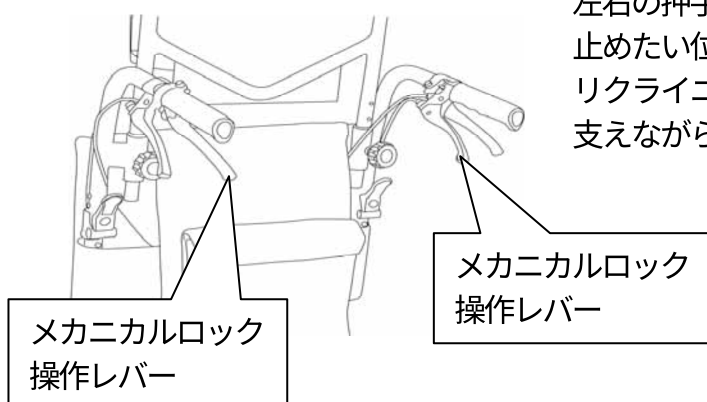


左右の押手と内側のレバーを両方とも握り、後方へ倒します。
止めたい位置でレバーを離すと止まります。（　0～35°）
ティルト操作は、介助者が腕などで車いすをしっかりと
支えながら行ってください。



安全のためにワイヤーは１年に１度、定期的に交換してください。

＜KRT-R(/ICR)＞　メカニカルロック操作レバー(リクライニングレバー)＞



左右の押手と内側のレバーを両方とも握り、後方へ倒します。
止めたい位置でレバーを離すと止まります。（　0～80°）
リクライニング操作は、介助者が腕などで車いすをしっかりと
支えながら行ってください。



安全のためにワイヤーは１年に１度、定期的に交換してください。

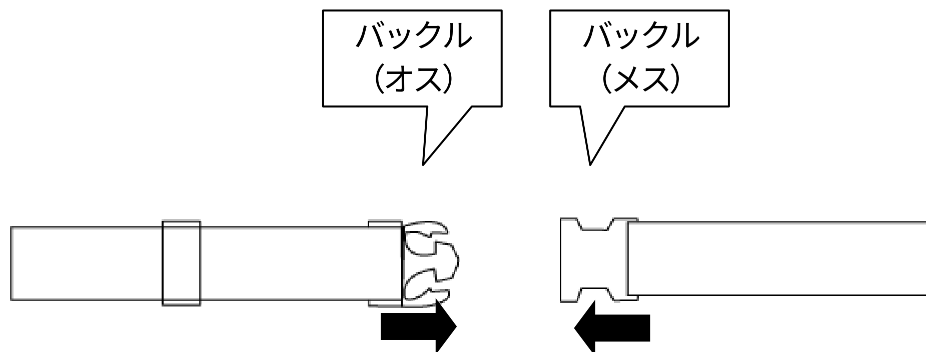
⚠ 警 告

●リクライニング動作、ティルティング動作時は、必ず駐車ブレーキをかけてから行ってください。

⚠ 注 意

●利用者の重さが加わりますので背もたれを支えながらメカニカルロック操作レバーを握ってください。
背もたれが急に倒れて大変危険です。
●リクライニング、ティルティングした場合は、転倒防止バーの使用をおすすめします。
また、必ず介助者が付き添ってください。特に坂道での走行は転倒に充分ご注意ください。
●リクライニング、ティルティング状態で走行しないでください。転倒の恐れがあります。
●リクライニング、ティルティング機構部に手や足を入れないでください。
●リクライニング時、ティルティング時は、一声かけてから行いましょう。
●リクライニング時、ティルティング時は後方へ転倒しやすくなり、非常に不安定となります。
必ず介助者が付き添ってください。また転倒防止バーを装備しておりますが
走行の際には充分に注意してください。

7.シートベルトの取扱い方法



車いすに深く腰掛け、カチッと音がするまで押し込んで留めてください。

⚠注 意

● シートから落ちるおそれがあるので必ずシートベルトを
使用してください。

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出される場合があり危険です。

また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。



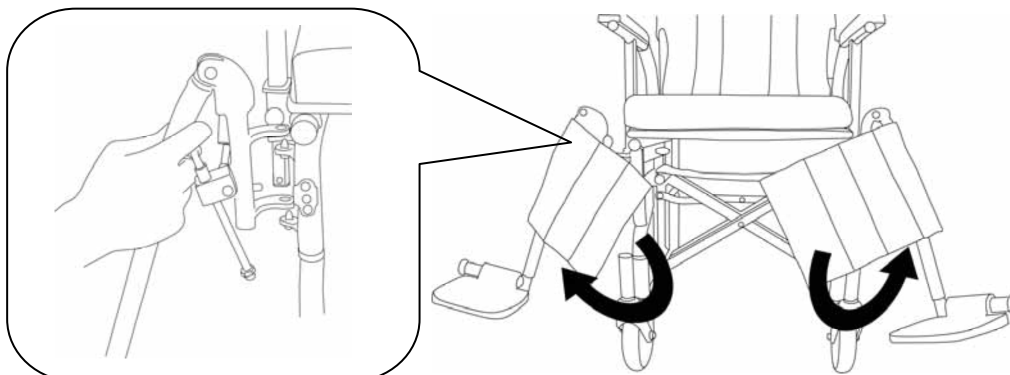
★転倒防止に充分配慮してください。

乗車・降車・移乗の際には不安定になりやすいため、転倒しやすくなります。
転倒しないよう、
・転倒防止バーをご利用いただく
・車いすの後方を人が支える
・車いすの後方をベッドや壁に押し付ける
・手すりを利用する
などの方法で十分配慮してください。

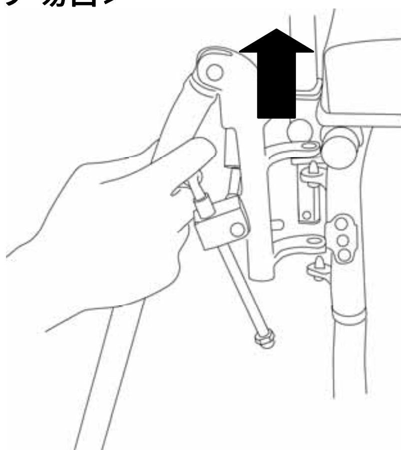
8.脚部の使用方法

<スイングアウトする場合>

スイングアウトスライドピンを引いて固定ロックを解除し、脚部を外側に回します。

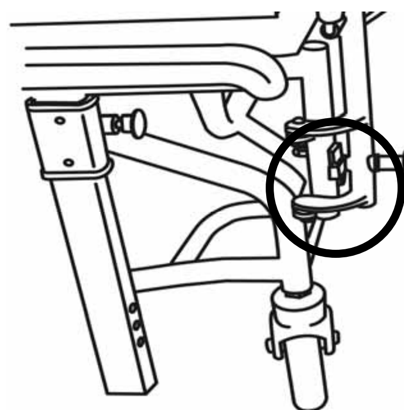


<取外す場合>



外側に廻した状態で脚部を上に引き抜くことができます。

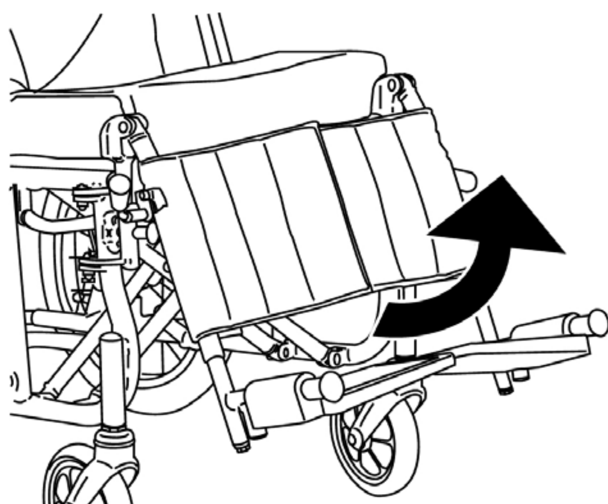
<戻す場合>



「カチッ」という音がして、スライドピンが差し込み穴に収まっていることを確認してください。

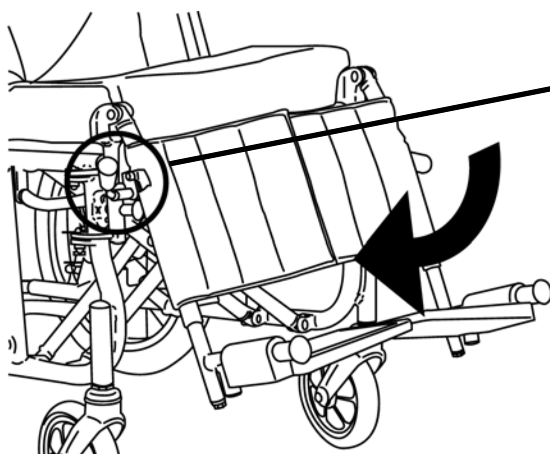
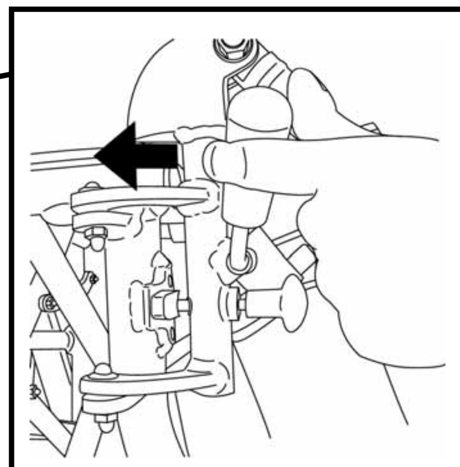
<エレベーティングする場合>

角度を調整するとき



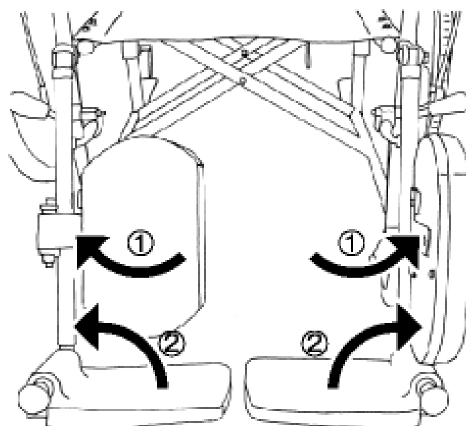
脚部を矢印の方向に持ち上げます。

下ろすとき

手を添えて脚部を支えながら、もう一方の手でロック解除レバーを背もたれ側に倒します。
※左右別々に動きますので、ご注意ください。
※脚部の動きに注意して、操作してください。

ふくらはぎパッドをたたむとき（KRT-T（R）/ICR 仕様の場合）



ふくらはぎパッドを左右に、次にステップ板を上に跳ね上げます。

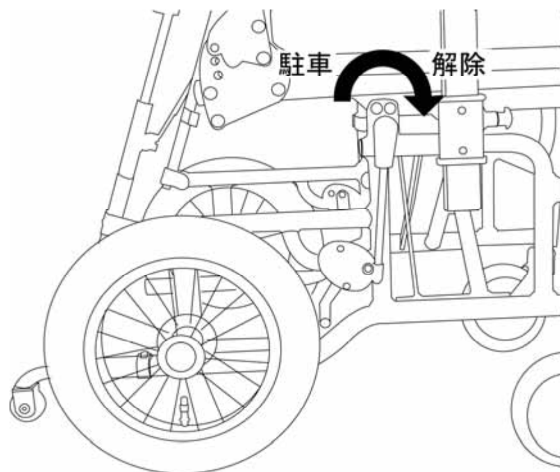
 **警 告**



● **階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に肘部や脚部を持たないでください。**
肘部や脚部が外れる恐れがあり大変危険です。

9.ブレーキの使用方法

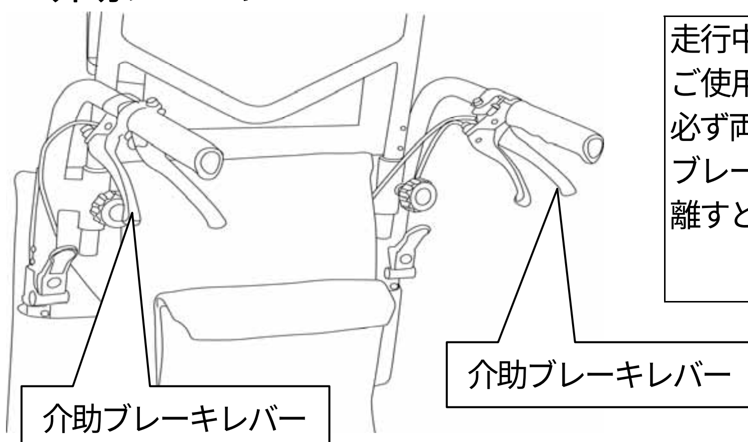
<駐車ブレーキ>



車いす乗降時には、必ず駐車ブレーキをかけて、
車いすが固定されていることを確認してください。
ブレーキレバーを後方に引くとロックし、
レバーを前方にすると解除されます。

※空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度
（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

<介助ブレーキ>



走行中や下り坂での制動ブレーキとして
ご使用ください。ブレーキレバーは介助者が
必ず両側同時にかけてください。
ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、
離すと解除します。

⚠ 警 告

※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。

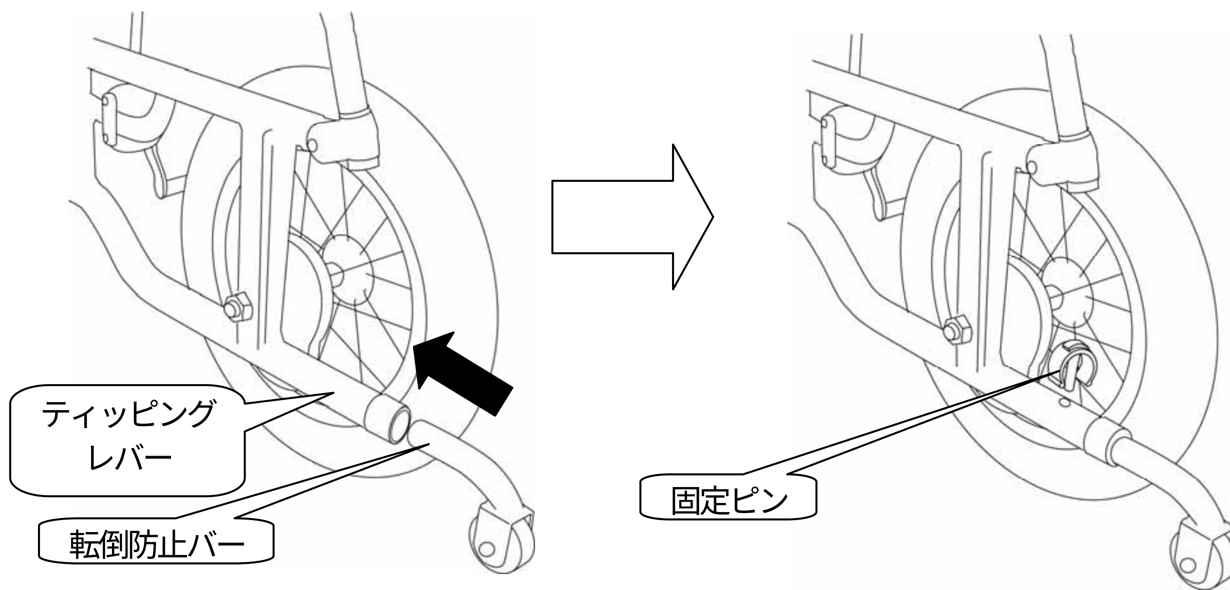
●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
ブレーキが変形・破損する恐れがあります。



●坂道や傾斜地では駐車しないでください。

坂道や傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。（滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

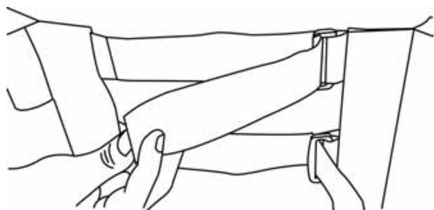
10.転倒防止バーの使用方法



<取り付け方>　転倒防止バーをティッピングレバーに差込み
フレーム側の穴と転倒防止バー側の穴を合わせ、固定ピンを差込み固定して下さい。
<外すとき>　固定ピンを抜いてから、転倒防止バーを引っ張ってください。

11.ベースシートの調整方法

この車いすの背ベースシートは利用者の方の体型に合わせて調整できます。
一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。



ベースシートの調整ベルトを、ご利用者の体型に合わせて張り調整し、クッションを乗せます。
これを利用することにより、背中にゆとりができ乗り心地が大変よくなります。

⚠注 意

●ベースシートを張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。
●ベースシートを張りすぎると背パイプやクロス金具が中央に寄ってしまい、幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。
●面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。接着力が弱まり、事故の原因となります。
●背クッションはポケットが付いているほうが外側です。裏表、前後の向きにご注意ください。

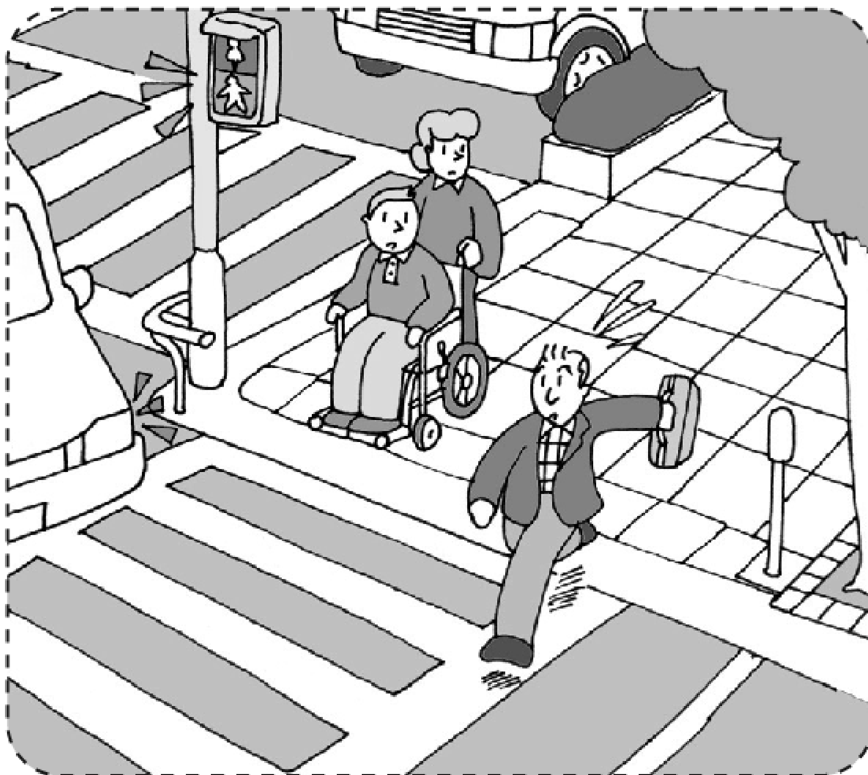
12.車いすの主な乗り方



●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や充分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。

歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。



●車いすは乗り物ですから、定期点検が必要です。
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★移乗　車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



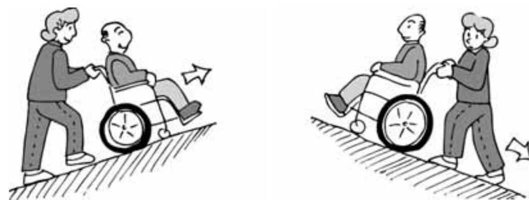


介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。	介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。	ゆっくりと腰を下ろしてもらう。 ※「いち、にの、さん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

※転倒しないように、十分な配慮が必要です。

★外出　車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“シートベルト着用”が基本です。

[坂道]



＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。

＜下り坂＞
坂を下るときは介助ブレーキを軽く使いながら、
後ろ向きに一歩ずつ下ります。
シートベルトを必ずご利用ください。

[段差のある場所]



●段差を乗り越える際は、固定されているパイプを持って持ち上げてください。
※ティッピングを踏んで前輪を浮かそうとすると、フレームがひずむ可能性があります。
※脚部や肘当て等を持って持ち上げると思いがけず外れる事があり、危険です。
※後方転倒には十分注意し、持ち上げて下さい。

13.点検・保守

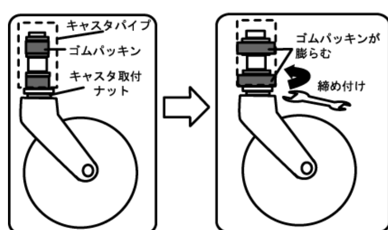
1ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤの溝は充分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものは走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。
また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。



（出荷時には充分に締め付けてありますが、ご使用されている間に振動により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。）
スパナでキャスタ取付ナットを締めると、ゴムパッキンが膨らみ、キャスタが固定されます。キャスタ取付ナットをしっかりと締めてください。
締付が弱いとキャスタが外れる恐れがあります。

★ブレーキはしっかり効きますか？



タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

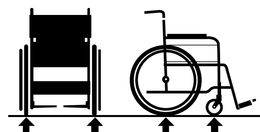
★フットプレートはしっかり固定されていますか？

付属品のスパナを使って、ステップパイプ先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、
ボルトを完全に締めてください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。
直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★ まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。



★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。直ちにご使用を中止し、
すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★ブレーキワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤー、リクライニングワイヤーは切れていませんか？安全のために、
１年に１度定期的に交換してください。

★介助ブレーキはしっかり効きますか？

介助ブレーキがスムーズに作動すること、しっかりと効くことをご確認ください。
異常がある場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、
ネジの緩みや可動部分の油切れが考えられます。
お買い上げの販売店までご連絡ください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

- 中性洗剤以外の洗剤を使用しないでください。
- シンナーやベンジン・アルコールなどの揮発性のものは使用しないでください。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
- オゾン消毒はしないでください。ゴム材料の収縮などの原因になります。
  変質・変色・傷み・割れの原因となります。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。

●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

14.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。
面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。取り除かないと、
面ファスナーの接着力が弱くなり、事故の原因となります。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。
（クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）



●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。
故障・変質・変色の原因となります。

●絶対に背延長を取り外して使用しないでください。
転倒の原因となります。

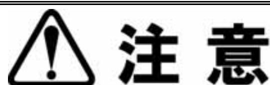
●中性洗剤以外を使用しないでください。
中性洗剤以外を使用した場合変質・変色・傷みの原因となります。

●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。
変質・変色・傷みの原因となります。

●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
傷みの原因となります。

15.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。



●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- ・車道に近いところ
- ・人通りのあるところ
- ・坂道
- ・路面に段差や凸凹のあるところ
- ・湿気の多いところ
- ・暑い日や寒い日の戸外
- ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- ・雨、風のあたる場所
- ・ほこりの多い場所
- ・非常口、消火器、消火栓の前
- ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- ・子供がいたずらをする恐れのある場所

16.仕　様

＜各部寸法＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・記載の寸法や状態は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

品名・名称			寸法表 KRT-T	KRT-R	KRT-T(R)/ICR
座　　幅		(mm)	410		
前座高		(mm)	490		
レッグ長さ		(mm)	350〜		320〜
後座高		(mm)	460		
シート奥行		(mm)	400		
背もたれ高		(mm)	530		560〜
肘掛け高		(mm)	220・240・260・280		
全高		(mm)	〜1280		〜1440
	折りたたみ	(mm)	870		
全幅		(mm)	560		
	折りたたみ	(mm)	300		
全長		(mm)	1,030		
	折りたたみ	(mm)	730		
重量		(kg)	23.0		28.6

〈各部仕様〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

		標準仕様・規格 KRT-T	KRT-R	KRT-T(R) /ICR
フレーム		左右折りたたみ方式		
後輪		12in　エアバンド車輪		
	タイヤ	12・1/2×2・1/4　エアタイヤ		
	チューブ	12・1/2×2・1/4　英式バルブチューブ		
前輪		6in　ニューソフトキャスタ　パッキン式樹脂ヨーク		
	キャスタ車輪	6in　ニューソフト車輪		
	ヨーク	6in　パッキン式樹脂ヨーク		
背シート		背ベース：適合調整シート(黒) 背クッション：着脱式（青メッシュ or 黒レザー） 枕：（青メッシュ or 黒レザー）		アイコンディープバック
座シート		座面板(黒)		
	座クッション	50mm 厚ウレタンフォームクッション （青メッシュ or 黒レザー）		リフレックスクッション
シートベルト		ワンタッチ樹脂式		
肘掛け		高さ調整式　落とし込み式		
	肘当て	スタンダードパッド　黒色		
脚部		エレベーティング&スイングアウト式		
	ステップセット	G.標準式　φ16.0 用　黒色		D.標準式　φ16.0 用　黒色
	ステップ板	g.黒色		d.黒色
	足ベルト	中央分離式（青メッシュ or 黒レザー）		ふくらはぎパッド式
駐車ブレーキ		エッグストップ		
	ニギリ	黒色		
介助ブレーキ		バンド式		
ハンドグリップ		反射板付　黒色		
ティルティング、リクライニング機構		メカニカルロック		

＊この車いすの後輪のハブ軸は $^1/_2$ -20UNF のねじを使用しております。また、背シート・バックサポート部、フットサポート部、介助ブレーキのバンドカバー部には十字穴付きタッピンネジを使用しております。

17.材料・材質一覧表

【　　　　】：表面処理

フレーム	フレーム	フレーム	アルミ 7000 系
		表面仕上	焼付け塗装 溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ 5000 系
	クロス	フレーム	アルミ 7000 系
		表面仕上	焼付け塗装 溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ 5000 系
部品	後輪	タイヤ	合成ゴム,ナイロン,スチールワイヤ
		チューブ	ブチルゴム
		リム	アルミ 6000 系【アルマイト】
		スポーク	スチール【ユニクロメッキ】
		ハブ	スチール【クロムメッキ】
		ナット	スチール【亜鉛メッキ】
	前輪	タイヤ	天然ゴム,スチレン・ブタジエンゴム
		ホイル	ポリプロピレン
		ヨーク	ポリアミド,グラスファイバー
		キャスタ軸	スチール【亜鉛メッキ】
		ベアリングオイル	グリース
	背シート	表地	青メッシュ：ポリエステル　黒レザー：ポリ塩化ビニル
		芯	ポリ塩化ビニル
	枕	表地	表地は背シート同様
		クッション	ウレタンフォーム
	座シート	座面板	カバー：ポリエステル　中身：木
		クッション	表地は背シート同様　クッション：ウレタンフォーム
	足ベルト	ベルクロ	オス（ナイロン）　メス（ナイロン）
		糸	ナイロン
	肘当て	クッション部	ポリウレタン
		中芯	スチール【亜鉛メッキ】
		取付ネジ	スチール【亜鉛メッキ】
	背折れ金具	レバー	ポリカーボネイト
		金具本体	アルミ 6000 系
	ハンドグリップ	グリップ	ポリ塩化ビニル
		反射板	ポリスチレン
		接着剤	クロロブレン
	ステップセット	ステップ板	ポリプロピレン,グラスファイバー
		ステップポスト	スチール【クロムメッキ】
		板バネ	スチール【亜鉛メッキ】
		バンパーゴム	天然ゴム
		ウス	スチール【亜鉛メッキ】
		引き上げ棒	スチール【亜鉛メッキ】
	駐車ブレーキ	レバー	ステンレス
		グリップ	天然ゴム
		カバー	ABS 樹脂
		本体部	ナイロン,グラスファイバー
部品	バンド式介助 ブレーキ	カバー	スチール【電着塗装】
		シュー	合成ゴム,繊維質充填材
		ブレーキレバー	ポリプロピレン
		ブレーキレバー取付バンド	スチール【電着塗装】
		アウターワイヤ	ポリ塩化ビニル
		インナーワイヤ	スチール【亜鉛メッキ】
梱包材	梱包材	外箱	ダンボール
		内袋	ポリエチレン
		テープ	ポリプロピレン

※　KRT-T（R）/ICR 仕様の専用部品(アイコンディープバック、リフレックスクッション、ヘッドサポート)については
同梱の別紙取り扱い説明書をご確認下さい。

18.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車　　種	
製 造 月	年　　　月

＜シール貼付位置＞



19.保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に当社へご返送ください。
保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（a）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
（b）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（c）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（d）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（e）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（f）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（g）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（h）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（i）取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
（j）ご購入後１ヶ月以内に登録されていない場合
（k）日本国外でご使用の場合

★消耗部品

・キャスタ輪　・シート類　・板ばね　・バンドブレーキカバー
・ワイヤー　・タイヤ　・チューブ　・虫ゴム

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

※ 一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

メ　モ

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで
各自治体の取り決めにしたがってください。



株式会社カワムラサイクル



■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野 3-1-1	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町 1-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川 1-3-18 マックスビル 5F 501 号室	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2013.12 版